

2020 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	はじめに	p. 1
2	2020年度の事業計画	p. 2
	<中期目標・中期計画に基づく事業計画>	
I	教育に関する目標を達成するための計画	p. 2
1	自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画	p. 2
2	教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p. 2
3	教育内容に関する目標を達成するための計画	p. 2
4	教育課程に関する目標を達成するための計画	p. 3
5	教育方法に関する目標を達成するための計画	p. 3
6	国際化に関する目標を達成するための計画	p. 3
II	研究に関する目標を達成するための計画	p. 4
1	研究業績に関する目標を達成するための計画	p. 4
2	学生の研究に関する目標を達成するための計画	p. 4
III	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p. 4
1	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p. 4
IV	学生の進路に関する目標を達成するための計画	p. 5
1	進路支援に関する目標を達成するための計画	p. 5
2	専門就職に関する目標を達成するための計画	p. 5
3	優良企業就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
4	公務員就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
5	Uターン就職に関する目標を達成するための計画	p. 6
V	学生支援に関する目標を達成するための計画	p. 7
1	学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画	p. 7
2	経済的支援に関する目標を達成するための計画	p. 7
VI	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p. 7
1	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p. 7

VII	入試広報に関する目標を達成するための計画	p. 8
1	入試広報に関する目標を達成するための計画	p. 8
VIII	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p. 8
1	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p. 8
IX	組織に関する目標を達成するための計画	p. 8
1	定員充足に関する目標を達成するための計画	p. 8
2	大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画	p. 9
X	財政に関する目標を達成するための計画	p. 9
1	健全財政に関する目標を達成するための計画	p. 9
(別表)	I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p. 10
	その他の計画	p. 17
1	80周年記念事業に関する計画	p. 17
3	法人の体制	p. 18
I	設置する学校・学部・学科等（2020年度予定）	p. 18
II	役員の概要（2020年4月1日予定）	p. 19
III	教職員の概要（2020年4月1日予定）	p. 19
IV	組織機構図（2020年4月1日予定）	p. 20

1 はじめに

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通じて女性の自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきたところである。しかし、昨今の大学を取巻く環境は、受験人口の更なる減少や大手私立大学の定員増等の影響から大変厳しい状況下であり、本学が今後とも発展していくためには、これまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会が必要とする能力を身に付けた卒業生を輩出していかなければならない。

このため、学校法人行吉学園では、これらの要請に応えていくために取り組むべき各般の施策の方向性を、2019年度を初年度とする5か年で達成する中期目標として定め、また、中期目標を達成していくため行動計画として中期計画を策定したところである。

そこで、中期目標並びに中期計画を達成していくために2020年度に取り組むべき施策の中から主な施策について、事業計画として次のとおり策定する。

なお、2020年度は学園創立80周年にあたり、学内関係者が一堂に集い、80年間の歴史を振り返り先人達の苦勞と努力に感謝するとともに、未来に向かい歩むべき方向性を考える記念式典を開催する。

2 2020年度の事業計画

＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞

(注) □内は中期計画、「・」は中期計画に対応する事業計画を示す。

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において3つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

【I-1-1】

- ・自立心・対話力・創造性に基づく到達度調査等を実施し、客観的な評価結果の妥当性を注視しつつ、一層の利活用を進める。
- ・卒業生アンケートの設問内容等を決定し、アンケートの実施に向け準備を進める。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

【I-2-1】

- ・各学科、各研究科等の計画は別表のとおり

3 教育内容に関する目標を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する指標を開発し、教養科目のカリキュラムを精査するとともに、全専任教員が教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

【I-3-1】

- ・日本語力〔文章読解能力、レポート作成能力など〕に関する検定試験として「日本語検定」、「文章読解・作成能力検定」、「漢字検定」などを導入する。
- ・英語の能力別クラス編成について、その学習効果を検証する。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

大学ではナンバリングを利用した履修指導を行い、短大でもナンバリングを導入したうえで学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPAを運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

【I-4-1】

- ・教養科目、各学科の専門科目とも資格に不可欠な科目を除き、科目の精査を通して不必要な科目を削減し適正な科目数にする。
- ・GPAの学科間の標準化を図り、質保証につなげる。
- ・GPA算出における課題を明らかにし、その改善を通してGPAの有効利用を図る。
- ・各学科の資格の教育効果や必要性を精査し、不必要な資格については廃止を検討する。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、実際に教育方法の改善につながる仕組みを整備する。またFD活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IRデータの収集・分析を進める。

【I-5-1】

- ・「授業アンケート」の回答率及び回答精度を維持・向上させるとともに、アンケート結果を踏まえて授業改善のための施策に取り組む。また、教員別の集計結果の提示方法について検討する。
- ・授業アンケート結果を授業改善に結びつけることを全教員に要請するとともに、集中型の授業方法改善研修会の実施に向けて内容を検討し、立案する。
- ・ライブラリー・コモンズの学修支援において教育支援ツールであるmanabaを有効活用する方法を探る。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

英語圏を中心に派遣留学生及び受入留学生の増加をはかる。派遣留学については、プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、資格サポートデスクと連携した英語運用能力の向上、保証人の協力を得られる仕組みの整備を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。

【I-6-1】

- ・留学経験者への上級レベル学習プログラムの開発を検討するとともに、学生の留学プログラムへの複数回参加を推奨する。

- ・グローバル・カフェにおいて、英語及び他言語学習の促進やグローバルな課題や国際交流に関するセミナーなどの実施を検討する。
- ・1回生を対象に、留学経験者の体験談を交えた留学説明会の実施を検討する。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

【II-1-1】

- ・最低限必要な業績の基準の設定に向けて、さまざまな指標の候補を探りながら、検討を進めていく。
- ・研究の活性化に向けて、社会貢献分野との連携を緊密にしつつ、学外研究費の情報収集及び学内への周知を強化する。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【II-2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

【II-2-1】

- ・各学科・各研究科と学術研究推進部が連携し、大学院生と学部生の活発な交流を推進していく。
- ・特別に優れた学部生・短大生の研究・探究の表彰制度の具体案を策定する。
- ・学生への学会・研究会等の情報提供と学会参加を奨励し、参加する学生の増加を図る。

III 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【III-1】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を、学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

【III-1-1】

- ・大学間連携組織、NPO 法人との連携強化を図り、大学コンソーシアムひょうご神戸での活動を活性化するとともに企画されたプログラムへの積極的参加を促進する。
- ・地域貢献活動の情報蓄積と学生への案内システムとして SNS 及び HP を活用したツ

ルの開発を行う。

- ・ 高大連携事業については、すでに教育交流、交流研究活動が行われている高校と協定を早期に締結し、業績化を図る。
- ・ 各種学協会の公募型研究のうち、採択実績のある協会等への応募を促進する。

IV 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【IV-1】

学生進路満足度及び卒業生離職率に関する調査を導入し、進路支援の指標化をはかる。1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

【IV-1-1】

- ・ ゼミ単位や学科単位でのガイダンスを促進し、S-NAVI（就職支援システム）を活用して学生情報を管理し、各学科と情報を共有する。
- ・ 編入学・大学院進学希望者全員の進学を目指した支援方策を実行する。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【IV-2】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・教職支援センターの情報共有を強化する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けてキャリア意識の涵養と対策講座等の活用をはかる。

【IV-2-1】

- ・ キャリアサポートセンターと学科との連携強化により学生情報の共有化に努めるとともに、現状理解を促し対策を講じる。
- ・ 教職においては、学科との連携強化をはじめ兵庫県や神戸市との連携を強化し、他の自治体との連携に向けて協力と協議を行う。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための受験支援や業種ごとの特徴を踏まえた試験対策を実施する。基礎学力や情報スキルにつき、対策講座や資格講座の活用をはかる。

【IV-3-1】

- ・離職率等を踏まえて選定する「優良企業」への就職の奨励を行い、また就職活動を終えた学生に対して S-NAVI（就職支援システム）を活用して「満足度調査」を実施する。その結果を分析して、本学としての「優良企業」及び「ターゲット企業」の選定を行う。
- ・注力業種の選定を行い、業種に特化した説明会等を実施する。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

地方の有力な就職先として公務員採用試験の合格を強化する。公務員希望者に対して1年次から意識の涵養をはかり、公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

【IV-4-1】

- ・資格サポートオフィスと協力し、1年次から公務員対策講座の開設や公務員業務のガイダンスを増やし啓蒙する。
- ・地域ごとの試験情報・試験内容を研究し、学生への情報提供を行う。

5 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

Uターン希望率やUターン就職率等の調査を実施したうえで、Uターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。希望者には、1年次から地方優良企業の情報及びUターン奨学金制度等の情報を提供する。また、地方公共団体とのUターン協定を推進するとともに地方優良企業との関係構築をはかる。

【IV-5-1】

- ・地方企業との関係強化を目指し、地方内定企業等への積極的な訪問活動を展開するとともに、地方優良企業の学内説明会を増加させる。
- ・就職協定を締結している中国・四国地方全県との企業相談会等へ参加し、関係強化を図る。
- ・学生アンケートや進路希望調査を基に学生のUターン希望者数を把握し、Uターン就職率を算出するとともに特長化を図る。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

不満足要因が追究できるよう学生アンケートの内容を精査し、学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学者予備軍の把握が可能な仕組みと関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティによりピアサポートを活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるための魅力あるクラブ育成を検討する。

【V-1-1】

- ・ 学生生活調査内容に連動する形で指標、目標数値の設定を検討する。
- ・ 学生の出身地別コミュニティ組織について、他大学状況のヒアリング等を継続し、上級生によるピアサポート制度の活性化と関連付けながら組織化に向け検討する。
- ・ 各クラブ活動の活性化を図るために、学生のニーズを把握したうえで、必要に応じて企画案を作成する。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

各種団体等の奨学金制度の情報収集と学生への周知を強化するとともに公営住宅、民間住宅等の空家対策と連携して低家賃住宅確保の方法を検討する。

【V-2-1】

- ・ 公共団体、福祉施設及び病院等における奨学金制度の情報を継続して収集するとともに、内容を精査し、必要に応じて説明会等の開催を検討する。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定するとともに時代の変化に対応した情報教育機器の整備と定期的な更新をはかり、施設・設備及び教育環境の改善をはかる。学生の大学生活充実に資するスペースの改修を進める。

【VI-1-1】

- ・ 施設・設備及び教育環境に関する学生へのアンケートを実施し、これをもとに必要な整備について迅速に対応を図り、実施する。
- ・ 須磨キャンパスについて、A館のラウンジ改修の具体的な構想を見出して、2020年度内に市バス乗り入れの安全対策としての歩車分離の歩道設置と掲示板の改修工事を行う。

Ⅶ 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【Ⅶ－１】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

【Ⅶ-1-1】

- ・各学科での取り組み等、教育に関する情報収集を強化し、他大学との差別化が図れるより具体的な情報発信に取り組む。
- ・志願者減少のエリアと高校を特定し、高校訪問を強化することで、原因分析と志願者増加に向けた戦略策定と実行に取り組む。
- ・地域ごとに入試、志願者の動向を分析し、その結果に応じた広報の展開、ツールの作成を行う。
- ・高大接続改革の入試を実施し、実施した入試制度の見直しや、学科の特性に応じた入試制度について検討する。

Ⅷ 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【Ⅷ－１】

地域の児童数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

【Ⅷ-1-1】

- ・定員確保に向け、幼保連携型認定こども園への移行申請を行うとともに、規程整備等の準備を行い、2021年4月の開園を目指す。

Ⅸ 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ－１】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足の組織については、未充足の期間によって改組や廃止を進める基準を整備し、早期の改善につなげる仕組みを構築する。

【Ⅸ-1-1】

- ・定員未充足を解消していくための具体的対策を検討し、実施する。
- ・社会情勢及び受験生の動向の把握、他大学の改組等に関する情報収集を引き続き行う。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【IX-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を行うことにより、効率的かつ効果的な運用が行えるよう体制整備をはかる。

【IX-2-1】

- ・大学・短大の一体的運用に向けた新体制のもとで、教学組織及び各委員会運営のサポート並びに課題改善に取り組む。
- ・関連部署との連携により、効率的・効果的な事務組織運営の方策を検討する。その中で、各行事の所掌部署及び実施内容等の統一の方向性について整理する。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。

各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり大学・短大全体で効果的な教育課程を整備する。

【X-1-1】

- ・管理経費の比率が高い部署の予算管理を徹底するとともに、新たな共通教育費の配分方法に基づき、予算措置を実施する。現状より増加となる場合は、相当分と経常費予算を相殺する。
- ・補助金収入増に向け、各部署の担当者を集めた補助金説明会の開催を検討する。
- ・専任教員の労務管理対応として、裁量労働制を試行するとともに幼稚園教諭に対しては、変形労働時間制を円滑に実施する。
- ・履修者数制限による授業不開講及び廃止科目制定のルールがカリキュラムに与える影響について検証を行う。
- ・専門基礎科目のうち教養科目へオープン科目化できるものを検討する。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部	2020 年度計画
日本語日本文学科	<p data-bbox="635 376 1350 564">各ゼミでの発表・討論・文章作成の機会の拡充、日本語関連検定の活用等の対策を講じることにより、専門性を高め、それとともに日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力の向上に取り組む。</p> <ul data-bbox="635 577 1350 936" style="list-style-type: none">・1年次でのまとまった文章作成機会の設定と添削指導をはじめ、各科目での発表・討論・文章作成の機会拡充を継続する。・全学年向けの就職内定者報告会、教職研鑽会や教員採用試験対策講座を学科で引き続き実施する。・日本語関連検定（文章読解・作成能力検定）など資格取得や、ボランティア、インターシップ、留学等を積極的に推奨する。
英語英米文学科	<p data-bbox="635 972 1350 1196">自学自習が可能な e-learning、TOEIC レベル別夏季集中講座、アドバンスクラスを新たに設ける等の対策を講じることにより、英語運用能力及び専門性の著しい強化に取り組むとともに、学外での英語ボランティアなど英語を活用する学びを取り入れる。</p> <ul data-bbox="635 1218 1350 1527" style="list-style-type: none">・学生の研究活性化に向け、卒論の口頭試問において複数ゼミの合同発表会を実施したが、卒論の口頭試問以外でも合同発表会の機会を設けることを検討する。・TOEIC 点数の引き上げに向けた方策として、引き続き上級、中級、初級の3クラスに分けて短期集中講座を開講し、同時に攻略法のエキスパートによる講演会も随時開催する。

<p>国際教養学科</p>	<p>少人数クラス授業の展開、新たな交換留学の開始等の対策を講じることにより、語学力及び専門性の強化に取り組むとともに、外国語を活用したフィールドワークを取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年夏期休暇中の学修意欲向上のため、国際教養基礎文献として分野別にリスト化し、多読英文図書 Graded readers の管理、活用法等を検討する。 ・英語圏留学生だけでなく全留学生に英語によるレポートを作成させ、英語での卒論作成につながる指導を行う。 ・外国語を活用したフィールドワークとして、観光を含む外国語ボランティアの参加に向けた事前準備について検討する。
<p>史学科</p>	<p>歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則に沿いつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるため、歴史学の基礎科目を追加するとともに課題解決型授業としての演習科目をいっそう充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の研究活動の活性化、および異学年交流のための合同ゼミ発表会等の実現の可能性を検討する。 ・1年次のカリキュラムにおいて、歴史についての基礎知識や基礎技能を充実させる。2年次以降においては、伝統的な歴史学の基本原則や学問作法を堅持しつつ、「講読・実習群」の科目の内容を検討し、有効な組織化の具体案を作成する。 ・歴史・文化の学習指標及びその学びを通じて育まれる表現力、コミュニケーション能力の向上のために、「歴史能力検定」「世界遺産検定」の内容を検討し、その活用法を考える。 ・キャリア意識の涵養強化に向けて引き続き取り組む。

<p>教育学科</p>	<p>学習環境を更に整備し、幼稚園教諭・保育士、小学校教諭養成の充実を図るための、アクティブ・ラーニング型授業を推進する。また、中学校教諭（英語）の養成を開始し、英語指導力の強化に向けた科目を設定する。専門性の向上を目指しカリキュラムの見直しとコース選択時期の前倒しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性強化及び教員採用試験合格に向けた取組として、カリキュラムマップに基づいて学生指導を進める。 ・ 中学校教諭（英語）導入に伴う英語力・英語指導力向上に向けた具体的な方策を検討し、海外留学について具体化を図る。 ・ 教職・保育者志望のモチベーション維持のためにオリエンテーションやコース選択説明会、コースの学生を集めた指導の機会を通して取り組む。 ・ 教員採用試験の2次試験対策として、教員の専門性を生かして、それぞれの専門分野において、サポートする。
<p>家政学部</p>	
<p>家政学科</p>	<p>コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新カリキュラムについて、専門共通科目群を中心に実施状況を見ながら検証する。 ・ 初年次の教育科目である「家政学を学ぶ」の一部の時間を3年生科目である「フィールドワーク」と連動させ、異学年と学びあう機会を設定することによる具体的な方法の検討を始める。 ・ 資格サポートの強化として、具体的にはTES資格対策講座や教職対策講座の実施、福祉住環境コーディネーターやインテリアコーディネーターの補習、社会調査士資格取得のための教育課程の充実、FP検定受験対策等のために、自主学習用教材の設置等の充実を図り、関連のサポートを強化する。

管理栄養士養成課程	<p>管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、専門性を伸ばすためのカリキュラム改編と、期待する能力に関する指標を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性強化及び国家試験合格に向けた対策として、2021年度からのカリキュラムの改正実施を目指す。 ・ 異学年との学びあう機会の実施方法を検討する。 ・ 学生の研究活性化に向け、卒論発表会の実施形態の検討を行い、卒論発表会への1,2回生の参加を増やす方策を検討する。 ・ キャリア意識の涵養強化に向けた取組として、引き続き外部講師による専門性のある仕事についての話聞く機会を設定する。
健康福祉学部	
社会福祉学科	<p>専門性強化に向けたカリキュラムの改編を行うとともに、社会福祉士等3種の国家資格取得に向けて、1年次から意識向上のための取組を充実強化し、3年次には各国家資格受験希望学生が本格的な受験勉強に取組み始める仕組みを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性の強化及び社会福祉士国家試験全員受験に向けた取組として、2021年度からのカリキュラム改正に合わせ、2資格取得可能なカリキュラムを編成する。 ・ 高等学校、短期大学、専門学校に出向き、社会福祉に対する理解を深めてもらうための出張授業を行う。 ・ 学生の研究活性化に向け、各学年で実施している学年横断的な取組（合同ゼミ・実習報告会・事例検討会・卒論発表会等）をさらに強化する。 ・ 公務員対策講座を推奨し、採用実績のある近隣府県・市町村の福祉専門職説明会を可能な限り開催する。

健康スポーツ栄養学科	<p>初期教育の強化をはかるとともに、中学校、高校の保健体育教諭の養成を開始して、スポーツ分野の特長を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康スポーツコースにおける保健体育教員免許と健康運動実践指導者資格、健康栄養コースにおける栄養教諭免許と健康運動実践指導者資格を同時取得することが望ましいものかを実質的な検討を開始する。 ・スポーツ栄養アドバイザー資格取得を推奨し、受験者数の増加を図る。 ・学生の研究活性化及び異学年交流の促進をはかるため、卒論発表会と修論発表会の同日開催を継続する。
看護学部	
看護学科	<p>カリキュラム評価をもとにした授業科目の開講期の変更を行う。ディプロマポリシーに掲げる能力の修得を検証する教育評価アンケートをもとに、教育の充実をはかるとともに学生が個々の学習課題に自主的に取り組める仕組みを整備する。また、保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた1年次からの学習支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育評価を継続的に実施し、経時的な傾向を分析する。それを基にカリキュラムの見直し、分野別教育評価に向けた目標値の検討を行う。 ・就職ガイダンスや国家試験対策のアドバイザーとして卒業生を招聘し、卒業生から在學生にアドバイスをもらえる機会を設定する。 ・ Semester毎に担任、教務委員会、国家試験対策委員会で学生の成績状況を確認し、個別の学習支援方法と内容を検討し、支援する。

神戸女子大学大学院

<p>文学研究科</p>	<p>指導教員の研究能力の向上をはかるとともに、大学院と学部の合同研究会を開催し、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部ゼミでの研究を活性化しつつ、大学院と学部の合同研究会を開くなど研究の魅力を普及し、引き続き学部生の進学意欲を喚起する。 ・学内の他研究室、他大学との交流を活性化し、引き続き外部の学会への積極的な参加を促す。 ・院生の進路希望を把握し、引き続きキャリアサポートセンターと連携してきめ細かい進路指導を実施する。
<p>家政学研究科</p>	<p>指導教員の研究能力の向上をはかり、業績の数値化を行う。教職免許志望者に対して教員のリーダーを目指すキャリア教育を実施する。また、インターンシップ、留学などの制度化のありかたを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の業績について、現状の教員評価案の改良版を作成し、数値化の検討を行う。 ・学部ゼミでの研究活性化と院生の研究発表会への学部生の参加を促すとともに、学部の活動に院生を積極的に参加させる。大学院への学部生の勧誘の時期を検討した上で、さらに勧誘を積極的に行う。 ・ハワイクワキニ病院でのインターンシップ制度の導入等魅力ある制度を引き続き検討する。他の海外地域および日本の病院でのインターンシップの可能性を検討する。
<p>健康栄養学研究科</p>	<p>指導教員の業績をまとめ数値化を行う。他研究科または、近隣他大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーの検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の業績の数値化に向け、大学院教員の業績を数値化できる議論を様々な指標の候補を探りながら本格化させる。 ・大学院生の中間発表会や修士論文の発表会に学部生が参加しやすくなる新しい方策を提案していく。 ・ジョイントディグリー・ダブルディグリーを実施している大学にヒアリングに行き、より具体的な検討を開始する。
<p>看護学研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置申請内容に沿い、計画どおり着実に履行する。

神戸女子大学専攻科

<p>学校教育学専攻科</p>	<p>実践的で高度な能力に関する指標を開発・作成し、目標数値を設定するとともに学部との接続強化はかる。指導教員の業績をまとめ数値化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的で高度な能力に関する指標を開発し、数値目標を設定する。 ・学部ゼミとの接続を強化する。
-----------------	---

神戸女子短期大学

<p>総合生活学科</p>	<p>学生の学修成果・総合的学び及び学問に基づく実践力の強化に向けた取組とカリキュラムの改編を行う。また、各種資格を活用した教育を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針に基づいてカリキュラムの見直しを行う。 ・情報系の資格取得に向けた情報科目の再編について継続して検討する。 ・資格取得を推進し、実践力に繋がる検定を授業と連携して実施する。
<p>食物栄養学科</p>	<p>子どもの食育を特長化し、カリキュラムの見直しを行うとともに、学外の幼児教育施設・機関と連携した教育を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食育など専門性の強化及び学生の意欲引上げに向けた取組として、学外フィールドワーク科目を設定するとともに既存科目の内容強化を継続する。 ・子どもの食育を特長化として、子どもの料理教室を実施し、小大連携、中大連携を継続して実施する。 ・成績優秀者の編入推進を図り、管理栄養士養成課程と連携し、より高い専門性を身に付け即戦力を備えた栄養士・管理栄養士の輩出を継続して実施する。

<p>幼児教育学科</p>	<p>保育実践力の向上を図る取組を行うとともに公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた学習支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践力引上げに向けた取組として、保育現場との連携を強めてさらに充実したプログラムとする。 ・ 意欲のある学生の教員・保育士採用に対する対策を他大学の例も参考にしながら強化する。 ・ 公的支援・民間保育所からの修学資金の確保について学生課と連携体制を構築し、引き続き情報交換等を行う。 ・ キャリア意識の涵養強化に向けた取組として、学生一人一人が望ましいキャリア形成について向上可能な仕組みを強化するとともに課題等を明確化する。
---------------	---

その他の計画

1 80周年記念事業に関する計画

【その他－1】

学園創立 80 周年にあたる 2020 年度に学内関係者の結束をより一層高めるための記念事業を実施する。

【その他-1-1】

- ・ 学内関係者が一堂に集い、80年間の学園の歴史を振り返るとともに、教職員が一体となって将来に進むべき方向性を共有する場を計画、実施する。

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2020年度予定）

区 分	学部・学科等		入学定員	収容定員	予定数	
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	8
			後期	2	6	0
		生活造形学専攻	前期	6	12	0
			後期	2	6	0
	小 計			18	40	8
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	0
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	0
	小 計			24	56	7
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	8
	看護学研究科 (博士課程)	看 護 学 専 攻	前期	8	16	16
後期			3	6	8	
合 計			57	126	47	
神戸女子大学	家 政 学 部	家 政 学 科		80	320	356
		管理栄養士養成課程		160	620	585
		小 計		240	940	941
	文 学 部	日本語日本文学科		60	240	278
		英語英米文学科		60	240	268
		国際教養学科		40	160	219
		史 学 科		60	240	264
		教 育 学 科		165	660	687
		小 計		385	1,540	1,716
	健康福祉学部	社会福祉学科		80	320	294
		健康スポーツ栄養学科		80	320	308
		小 計		160	640	602
	看 護 学 部	看 護 学 科		90	340	356
学校教育学専攻科			15	15	0	
合 計			890	3,475	3,615	
神 戸 女 子 短 期 大 学	幼 児 教 育 学 科		100	200	146	
	総 合 生 活 学 科		120	240	206	
	食 物 栄 養 学 科		120	240	151	
	合 計		340	680	503	
神戸女子大学附属高倉台幼稚園			100	200	156	
総 計			1,387	4,481	4,321	

II 役員の概要 (2020年4月1日予定)

(1) 定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	5人	3人	8人	4年	1号理事(学長)の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

(2) 寄附行為の選任条項

(理事)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 神戸女子大学長

(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

(3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

(監事)

第7条 監事は、この法人の理事又は職員(学長、教員その他の職員を含む。)又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

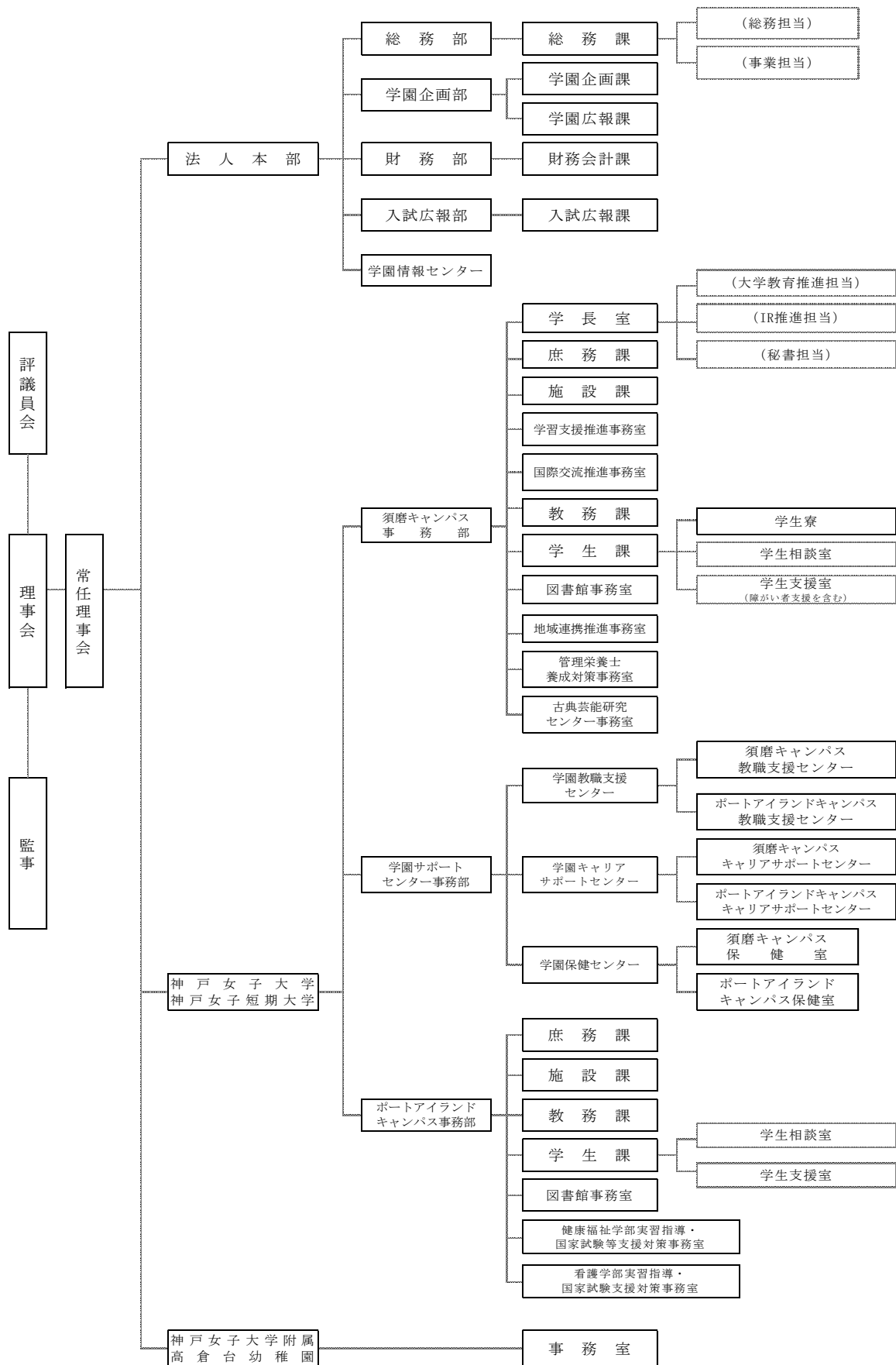
(3) 役員一覧

区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	行吉 宜孝	H31.4.1	—	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.4.1	—	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.4.1	(H30.6.29)	評議員	6-1-2
理事	前田 研史	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	伊吹 眞澄	H30.6.29	—	評議員	6-1-2
理事	杉原 基弘	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.6.29	(H30.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.6.29	—	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.5.27	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	芳木 伸吉	H18.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1

III 教職員の概要 (2020年4月1日予定)

区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	187	36	13	236
専任職員数	9	70	11	3	93
計	9	257	47	16	329

IV 組織機構図 (2020年4月1日予定)





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713